

権利擁護／虐待防止①

基礎知識編

⑤ 高齢者虐待の実態 居宅編

この教材の目的

- 居宅では、どのような虐待が発生しているのかを理解する。
- 居宅での虐待防止のために何ができるのか分かる。

高齢者虐待防止法に基づく対応
状況等に関する調査結果から
(平成28年度調査)

虐待は発生割合を認知症の重症度別ではどの区分が最も多いでしょうか？

1. 認知症日常生活自立度Ⅰ
2. 認知症日常生活自立度Ⅱ
3. 認知症日常生活自立度Ⅲ
4. 認知症日常生活自立度Ⅳ
5. 認知症日常生活自立度M
6. 自立又は認知症なし

答え

1. 認知症日常生活自立度Ⅰ	17.8%
2. 認知症日常生活自立度Ⅱ	34.3%
3. 認知症日常生活自立度Ⅲ	24.1%
4. 認知症日常生活自立度Ⅳ	7.1%
5. 認知症日常生活自立度M	1.6%
6. 認知症自立又は認知症なし	10.1%

※不明など2.0%

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

認知症日常生活自立度Ⅱの高齢者への 虐待が一番多い理由を考えてみましょう

所要時間:5分

答え(例)

認知症日常生活自立度Ⅱは、日常生活に支障が出てくるレベル。周囲の人が認知症であることを受け入れることができず、虐待につながる。

認知症日常生活自立度Ⅱは、たびたび道に迷うなど生活上のミスが増えるレベル。心配する気持ちが虐待につながる。

などなど

虐待相談・通報者は誰が多い？

- 介護支援専門員
- 介護保険事業所職員
- 医療機関従事者
- 近隣住民・知人
- 民生委員
- 被虐待者本人
- 家族・親族
- 警察

答え

介護支援専門員	29.9%
介護保険事業所職員	6.6%
医療機関従事者	4.9%
近隣住民・知人	3.7%
民生委員	2.9%
被虐待者本人	7.6%
家族・親族	9.1%
警察	21.1%
※その他	14.2%

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

介護支援専門員，及び介護保険事業所職員が約3分の1！

早期発見の努力義務

(高齢者虐待防止法)

高齢者の福祉に職務上関係のある者は、高齢者虐待を発見しやすい立場にあることを自覚し、高齢者虐待の早期発見に努めなければならない。

居宅で最も多く発生しているのは、
どんな虐待だと思いますか？

- ①身体的虐待
- ②介護等放棄(ネグレクト)
- ③心理的虐待
- ④性的虐待
- ⑤経済的虐待

最も多く発生しているのは・・・

①身体的虐待

(内訳)

- ・ 身体的虐待 67.9%
- ・ 介護等放棄 19.6%
- ・ 心理的虐待 41.3%
- ・ 性的虐待 0.6%
- ・ 経済的虐待 18.1%

※複数回答

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

身体的虐待は最も多いが・・・ 経済的虐待が多いのが居宅の特徴

居宅で起きている経済的虐待の例

- ・年金の取り上げ
- ・預貯金の取り上げ
- ・日常的な金銭を渡さない など

要介護度別にみると、最も多く虐待を受けているのはどれだと思いますか。

要支援1

要支援2

要介護1

要介護2

要介護3

要介護4

要介護5

最も多いのは・・・ 要介護1。

(内訳)

- ・要支援1 7.5%
- ・要支援2 9.0%
- ・**要介護1 23.4%**
- ・要介護2 21.5%
- ・要介護3 18.2%
- ・要介護4 12.7%
- ・要介護5 7.4%

※不明0.3%

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

なぜ要介護1が最も多いと思いますか？

所要時間:3分

考えるヒント:要支援2は少ない

答え(例)

・認知症に対する理解がなされていない。

などなど

※要支援2と要介護1の違い

➡ 認知症症状の有無

虐待の発生要因で多いのはどっち？

- ①虐待者の介護疲れ・介護ストレス
- ②被虐待者と虐待者との人間関係

答え

①虐待者の介護疲れ・介護ストレス 27.4%

②被虐待者と虐待者との人間関係 10.4%

第1位 虐待者の介護疲れ・介護ストレス 27.4%

第2位 虐待者の障害・疾病 21.3%

第3位 経済的困窮 14.8%

第4位 被虐待者の認知症の症状 12.7%

第5位 虐待者の性格や人格 12.0%

第6位 被虐待者と虐待者との人間関係 10.4%

※複数回答

虐待が最も多い被虐待者との続柄は？

- ①夫による虐待
- ②妻による虐待
- ③息子による虐待
- ④娘による虐待
- ⑤嫁による虐待

最も多いのは・・・

③息子による虐待

(内訳)

①夫による虐待	21.5%
②妻による虐待	5.8%
③息子による虐待	40.5%
④娘による虐待	17.0%
⑤嫁による虐待	4.0%

※その他11.2%

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

虐待が起こった家族形態で 最も多いのは？

- ① 単独世帯
- ② 夫婦のみ世帯
- ③ 未婚の子と同居
- ④ 子夫婦と同居

最も多いのは・・・

③未婚の子と同居

(内訳)

①単独世帯	7.5%
②夫婦のみ世帯	21.7%
③未婚の子と同居	33.8%
④子夫婦と同居	14.4%

※その他22.6%

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

被虐待者が利用している(していた)サービスのうち、多いのはどっち？

①訪問介護

②通所介護

答え：通所介護

- ①訪問介護 28.2%
- ②通所介護 62.7%

虐待を行った年齢層では、
どの年代が最も多いと思いますか？

- ①40歳未満
- ②40～49歳
- ③50～59歳
- ④60～69歳
- ⑤70～79歳
- ⑥80歳以上

虐待者で最も多いのは・・・

50～59歳

(内訳)

①40歳未満	8.3%
②40～49歳	18.3%
③50～59歳	23.8%
④60～69歳	16.6%
⑤70～79歳	14.5%
⑥80歳以上	12.0%

※不明6.7%

厚生労働省「平成28年度『高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律』に基づく対応状況等に関する調査結果（添付資料）」<http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197121.pdf>（2018年3月12日）

これらの虐待の実態から
どんなことが見えてきますか？

所要時間:5分

答え(例)

虐待者で多いのは、親と同居している独身男性。
日中は、訪問介護を利用して、夜間は、自分が
介護をしている。
親が認知症になったことを認められない。
などなど

居宅での虐待防止のために
何が出来そうですか？

答え(例)

- 家族の会を紹介する。
- 認知症を理解できるようなイベントに参加してもらう。

などなど

この教材を終えるにあたって

居宅での虐待は、認知症への理解不足、介護者の孤立などが引き金となります。

介護保険事業所の職員に、虐待の早期発見の努力義務が課せられている自覚が必要です。

利用者に小さな変化が見られた場合は、そのままにせず、報告しましょう。

家族支援は、重要な地域貢献にもなります。

お疲れさまでした。